

◇計画作成の指針（推進委員会の意見から）

	計画作成の指針	検討・実施すること	推進委員会での意見
計画の前に	一次計画の成果と課題に反映 二次計画の内容に反映	【計画の前に現状把握と次期計画への反映】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の取り組みの集約をする ・県の計画を読み解く ・市で行ったアンケートの結果と文部省で行ったアンケートの結果の検証 	現状把握が大切（市の状況、県の状況、社会状況） <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の分析に時間をかけること ・各学校で行なっていることを聞き取らないと背景が見えてこない ・県の計画との整合性 ・なぜ好きなのか、何故読まないのか、何故読めないのか
読書の考え方	読書の考え方を計画の目的に反映 具体的な取り組みを考える上で、年齢ごとの「読書の考え方・必要性」を検討	【読書の考え方の検討】 <ul style="list-style-type: none"> ・読書の定義の検討（広義） ・読書の効能の検討（なぜ読書活動を推進するのか） 	読書の考え方の整理 読書の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・読書の定義をブレイクスルーしていく ・本って何か。漫画本、本（紙）に限らずタブレットやパソコンでの電子書籍もある。 ・読書が言葉を学んだり、感性を磨いたり表現力を高めたり、想像力を豊かにするというのは、心の安定や育ちの土台があって、つながっていくのではないか。
計画の目的	計画の目的は、誰の心にも届く、具体的に読書の有益性がわかるものに	【計画の目的を検討する上で】 <ul style="list-style-type: none"> ・計画の目的を具体的に ・読書の有益性を強調 	計画の目的が大切 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな第二次計画を作るのか、なぜ作るのかを大事にしたい。 ・ポイントして主体性と多様性を認めることを盛り込んだ、鶴岡独自の形が良い ・「生きる力を身につけるために読む」ことから、「知識を得て、考えて動く」ということ。
計画の考え方	子どもの頃の読書習慣形成 そのために大人ができること 読書をしたことから次のステップへ 生涯読書の推進のためには、子ども時代の読書経験が重要である。 子どもの読書活動を推進し、子ども時代の読書活動が活発になることが、将来の市民の読書活動を推進することになる。	【計画の考え方として】 <ul style="list-style-type: none"> ・小さいころの読書体験の大切さ ・読書習慣の確立 ・大人ができること ・主体的な読書、多様性のある読書 ・学校図書館の役割 ・読書が目的でなく、その後のことを大切に 	読書の体験、読書習慣、読書の後のこと 大人の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣づくりの一つとして読書を入れて、第二次計画に盛り込んで。 ・学校図書館間の格差を減らすこと ・読書の果たす役割がなにか、各家庭で出来ること、幼稚園、保育園で、各園で出来ることは何か、全体で取り組むことはどんな事が出来るのか。 ・成長と共に（読書から）一度離れても、将来的にまた読書体験につながればいい ・本を読んだ後のこと（考える・動く 双方） ・小さい時代（小学校時代）の読書体験が将来の読書習慣につながる ・主体的と多様性を求める。 ・「読書によって知力の土台を作りましょう」 ・学力面で子ども達を伸ばすために、読書はどう関わって行けばいいのか。

<p>具 体 的 な 取 組 み の 考 え 方</p>	<p>いつ、どこで、誰が、何を、どうするのか。 また、誰のために。も考えた取り組み</p> <p>どのような読書活動が推進されるのか。</p> <p>子ども自身の取り組み 年齢に応じた取り組み</p> <p>取り組みと目標が連動するように</p>	<p>【具体的な取り組みの考え方として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標と取り組みが連動するように ・大人のための具体的な取り組みを ・読書の習慣作りのための取り組み ・子どもから引き出すような取り組み ・子どもが自ら動く取り組み ・家庭での読み聞かせの取り組み ・現場の先生方が実施しやすい取り組み 	<p>読書習慣作りのための子どもの取り組み、大人の取り組み 数値目標との連動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値と取り組みが連動するようなかたちの推進計画 ・大人に、様々なかたちで読書の大切さを伝えていく具体的な推進計画 ・「読まざるを得ない習慣づくり」も大事 ・みんなで取り組む生活習慣づくり ・特徴的な取り組みを集約し、学校で参考になるような事例が載っている計画 ・教えるのではなく教えてもらうカタチの方向転換を相互で。 ・「これを読んでください」でなく「おすすめの（本を）教えてください」、に転換した方が合ってくるのでは。 ・心の育ち、心の安定の一つとして、読み聞かせを ・4・5歳児が本を読んでというのは、「お母さんと時間を求めている」と話している。 ・現場の先生の参考になるような実例などを入れていく必要がある
<p>具 体 的 な 取 組 み</p>	<p>子どもの年代に合わせた取り組み</p> <p>誰が取り組むのか分かる取組み</p> <p>どの年代でも関わるべき取組みがある</p> <p>わかりやすい取組み</p>	<p>【具体的な取り組みを考える上で】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の運営に関するもの ・家庭学習での家読 ・楽しい読書体験に関するもの ・読書の仕方を紹介しあう ・大人の情報共有や交流に関するもの ・読書（学び）の楽しさを伝える取組み →年代に適した取り組みの検討 	<p>様々なシーンでの取組みがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の運営についての研修をすること ・家庭学習と家読をワンセットで ・本を読む目的と読む時間と読み方を紹介しあう活動を通した読書の広がり。 ・宿題（やらなければいけない環境）になればいいのにと思っている ・親同士の情報交換、交流の場も大切。 ・読めば楽しいものだという経験をさせたい。 ・学びの面白さ、読書の楽しさをどう伝えればいいのか、どう学びにつなげていくのか。